

成果

算数

○教材提示

ねらいや学習課題が視覚的に分かる。
課題解決への見通しが持てる。

○ヒントカード

学習の足並みをそろえて進められる。
自信を持って自分の考えを持てる。

○算数的活動

思考を深めるのに有効。

○伝え合う活動

自発的に教え合う。
友達の考えにふれることによる思考の
深まり。

○クロームブックの活用

何度も試しながら取り組める。
考えの共有がしやすい。

国語

○課題や発問の工夫

根拠を持って考えを言えるような発問。

○クロームブックの活用

考えを書く意欲が高まる。
友達の考えを手元で見られる。
消極的な児童には有効。
友達の考えとの共通点や違いに気付く。

○個人・ペア・グループ学習

友達の考えを確認してからの話し合い。

課題

- 全体での共有に深まりが見られない。
→効果的な方法を検討
- 学び合いをより深めさせたい。
→考えを整理する時間が必要, 児童の考えの生かし方を追究
- クロームブックの使い方
→操作への慣れ, 課題掲示や共有するための工夫が必要

- クロームブックの使い方
→学習形態や意図を考えて活用
- 伝え合う活動で考えを「発表する」・「聞く」だけになる児童がいる。
→質問や感想も言えるように指導していく。

低学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

「自ら考え、表現し、学び合う子供を育む」

～対話的な活動を通して学びを深める授業づくり～

1 目指す児童の姿

- ・自分の考えを持つことができる児童
- ・自分の考えを伝えることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】**学ぼうとする意欲を高める工夫**

・学習のねらいがわかるような教材提示の工夫

- 基本となる図形を示すことで、ねらいが視覚的に分かるようになった。
- 提示の方法（黒板かテレビか）や基本となる図形の提示の仕方の有効性を考えて更に工夫する必要がある。

【視点2】**自分の考えを深めることができる対話的な活動の工夫**

・具体物の操作で自分の考えを伝えられるような教材の工夫

- クロームブックのスクラッチのアプリケーションを使用することで、より効果的にねらいに迫ることができた。（準備や作業が容易、やり直しや修正も容易。）
- 一人一人の考えの共有がしやすかった。
- 全体での共有の仕方、より効果的な方法がないか検討する。
- 発達段階に応じて、図形を手で触らせながら操作する活動も加えていく必要がある。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ① ねらいを明確にし、視覚的に示す。
- ② 伝え方のバリエーションを増やす。（具体物、図、文、絵など）

中学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

「自ら考え、表現し、学び合う子供を育む」
～対話的な活動を通して学びを深める授業づくり～

1 目指す児童の姿

自分の経験したことや考えを順序立てて、自分の気持ちを交えながら、進んで話することができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】学ぼうとする意欲を高める工夫

・クロームブックを活用する。

- 自分の考えを作る状況となり、良かった。
- 視覚的に意見の交流ができた。手元で友達の意見を見ることができた。
- 操作の慣れが必要だと感じた。
- 活用する意図を考えての使用が必要。

・児童が伝えたいような課題や発問の工夫をする。

- 自分の立場を明らかにし、根拠を持って考えを言えるような発問が効果的であった。
- 物語文では、前時までの流れを振り返る場面次時の考えの深まりにつながった。
- 児童が考えたいような課題を軸として持つておくことが大切。

【視点2】自分の考えを深めることができる対話的な活動の工夫

・クロームブックを活用する。

- 手元で友達の意見を見ることができた。
- ロイロノートが使いえなくなったら…
- クロームブックをどのようにして使うのか、本質とのつながりを意識して考えていく必要がある。

・個人、ペア、グループなどの学習形態を工夫する。

- 全体の前で発言できない児童にとって、ペアやグループが有効的だった。
- 話し合いをする相手を探す時に個人差があった。自ら意欲的に行ける児童の育成や積極的に意見交流ができるような土台作りが必要。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ①理由や根拠をもとに自分の意見を言えるような発問等の工夫
伝える相手を意識した言語活動に取り組めるような授業構成の工夫
- ②個人でしっかりと考えを持ち、相手に伝えられるよう、ねらいに合った学習形態を取り入れる。

高学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

「自ら考え、表現し、学び合う子供を育む」

～対話的な活動を通して学びを深める授業づくり～

1 目指す児童の姿

自分の経験したことや考えを順序立てて、自分の気持ちを交えながら、進んで話すことができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】学ぼうとする意欲を高める工夫

- ・既習事項の確認や前時の復習を行い、学習課題を解くためのヒントを与え、自信を持って自分の考えを持てるようにする。
- ・「解いてみたい」「取り組んでみよう」と興味・関心を持続しながら問題解決に取り組めるような導入の工夫。
- ・該当学年までの基本的な学習内容の定着を図る。
- ・算数の文章の造りを理解させ、解くためのキーワードを見付けることができるようにする。
 - 既習事項の確認や前時の復習の時間を多く取ったことにより、前向きに取り組めるようになった。（6年）
 - 式の意味・構造を理解するために単位をつけて立式させたことは有効だった。（5年）
 - 算数的活動を取り入れることは思考を深めるのに有効だった。（5・6年）
 - 基礎基本の習熟を図るためには、繰り返し指導することが必要である。（5年）
 - 既習事項の確認に時間を取り過ぎると、本時の課題解決に十分な時間が確保できない可能性がある。（5・6年）

【視点2】自分の考えを深めることができる対話的な活動の工夫

- ・5年：友達の意見を聞いて自分の意見に生かす。
- ・6年：友達の考えを聞いて、共通点・相違点・分からない点を見付けさせる。
 - 友達の考えや新しい考えにふれることで思考を深めることができた。（5・6年）
 - 児童間の教え合いの場では、教師の言葉より児童の言葉での説明が分かりやすいため、特に下位群の児童には有効であった。（5・6年）
 - 全体共有の場で児童の考えを生かせなかった。（6年）
 - 自分や友達の考えや意見を整理する時間が必要である。（5・6年）

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ① 基礎学力の向上。
- ② 基礎基本の積み重ね。（毎日の計算プリントや宿題など）
- ③ 交流場面・交流回数を増やしていき学び合う力を付けていく。
- ④ 習熟の時間の確保。（行事の精選が必要）

特別支援学級 研究成果と今後の課題

研究主題

「自ら考え、表現し、学び合う子供を育む

1 目指す児童の姿

○自分の考えを持つことができる児童

○自分の思いや考えを進んで表現しようとする児童

2 授業づくりの視点について成果○ 課題●

【視点1】学ぼうとする意欲を高める工夫

- ・児童の興味・関心を引く具体物を用いる。
- ・視覚的に分かりやすい提示の工夫。

○実際に色水やコップ、鉛筆など児童の身近な物を使うことで児童の興味を引き、意欲的に学習に取り組もうとする姿が見られた。

○具体物を用いたり操作したりすることで、実際の長さやかさを体感させることができた。具体物から半具体物、数値を順に提示することで思考がスムーズになった。

○多様な教具を使ったり、難易度を変えて提示したりすることで、様々な視点からの児童の考えを引き出すことができた。

●児童の実態が多様であるため、今後も一人一人が分かるような指導の工夫が必要である。

●児童にとって分かりやすい数や掲示の仕方、内容について今後も考えていく必要がある。

【視点2】自分の考えを深めることができる対話的な活動の工夫

・友達の意見を聞くことを通して、自分の思いや考えを持ったり、確かめたりする機会を設ける。

・教師が児童の考えを引き出したり、児童の意見をつないだりする役割を担うことで、対話的な活動を補助する。

○ペアでの話し合い活動を取り入れることで、自分の考えを友達に伝えようとしていた。また、聞くときも友達の意見をしっかり聞くことができた。

○ペアで話し合ったことを教師が認めることで自信を持って発表することができた。

○誰の意見か視覚的に分かりやすくしたことで、友達の考えを参考にしたり、自分の考えを広げたりすることができた。また、実際にやって見せたり、教えたりすることが理解に繋がった。

○教師が本当かどうか問題提起することで、さらに考えようとする姿が見られた。

●話し合いが深まるペアの組み方を検討していく。

●ペア学習を様々な場面で取り入れていくことで、対話的な活動に慣れさせていく。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

1. ペア学習で、互いに考えを伝え合ったり、自分の考えを確かめたりする機会を増やす。
2. 具体物や半具体物を使うことで児童の興味関心を高めていく。

ことばの教室 研究成果と今後の課題

研究主題

「自ら考え、表現し、学び合う子供を育む」

～対話的な活動を通して学びを深める授業づくり～

1 目指す児童の姿

自分の経験したことや考えを順序立てて、自分の気持ちを交えながら、進んで話すことができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】学ぼうとする意欲を高める工夫

・自分の思いや考えを持ち、進んで話したいと思える教材の工夫をする。

- 吃音の児童のめあてに合った教材を選び、1人読みや交互読みなど読み方を工夫して音読練習に取り入れることができた。
- 国語の発展教材の本を図書室から数冊選び、その中から児童が読みたい本を選ばせ音読練習に取り組みさせた。意欲的に音読練習に取り組むことができた。
- 児童一人一人のめあてに合わせた読み物や図書を用意する必要がある。
- 正誤弁別問題等で、問題を出す側、答える側の役割交代をして、児童が張り切れる場の設定の工夫をしていく。

【視点2】自分の考えを深めることができる対話的な活動の工夫

・活動の中で会話をする場を設け、自分の思いや気持ちを相手に伝え、さらに会話がふくらむように質問等声掛けし、自分の考えがさらに深まるようにする。

・授業の最後の振り返りで「ひとこと感想」を書かせ、担当からも頑張ったところを伝えることで、さらに自分の思いが書けるようにする。

- 「フリートーク」の時間「話題カード」を提示することにより、その中から児童自身が話したい内容を選んで話ができるようにした。また、それに対して質問したり、単語ではなく文章で答えさせるようにしたりすることで会話が増えた。
- 「フリータイム」で児童の好む活動を取り入れ、活動しながら会話をするすることで、会話が増え、さらに楽しんで会話をすることができた。
- 授業の振り返りで「ひとこと感想」を書くとき、その日の学習で特に頑張った課題について考えさせた。また良くできたことを具体的に賞賛し、児童の自信に繋げることができた。
- ことばの教室でうまくできたことを、実際の会話やクラスでの授業の中で音読や発言時に生かせるようにしていきたい。
- 参観時、緊張や恥ずかしさから普段より固くなり、口数が減った。緊張をほぐしていく方法を工夫していきたい。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ①ことばの教室で練習を積み重ね、成功体験を増やしていくことで自信を付けさせ、自己肯定感を高めていきたい。
- ②ことばの教室で学習し身に付けたことばの力や話し方のコツなどを、学級や家庭でも生かし、さらに活躍できる児童の育成に努めたい。

